

1 単元名 「共に生きる～未来へ向かって～卒業に向かって ー恩返しプロジェクトー」

2 単元の目標

- ・ 枯れ葉を活用して、卒業に向けてこれまでにお世話になった西紫原小学校へお礼の気持ちを伝えることのよさを理解し、西紫原小学校のためになることは何かを考え、恩返しを形にすることができる。

(知識及び技能)

- ・ 枯れ葉に関わる課題を見だし、西紫原小学校のみんなのためになる活用方法を考え、そのために必要なことを整理しながら計画し、西紫原小学校への恩返しを実行することができる。

(思考力、判断力、表現力等)

- ・ 枯れ葉を西紫原小学校への恩返しのためにどのように活用できるか主体的に考えたり、友達と協働しながら恩返しを形にして実行したりしようとし、自己有用感を味わうことができる。

(学びに向かう力、人間性等)

3 単元について

(1) 教材観

本単元では、「落ち葉の有効活用」、「卒業するにあたって行う学校への恩返しの活動」を教材として取り上げる。

本校は、学校緑化コンクールで14年連続県知事賞を受賞し、昨年度は全日本学校関係緑化館コンクールで準特選をいただくほど、緑化活動を積極的に行っている。子供たちにとって緑化活動での実績は自慢であり、学級園や一人一鉢の世話やたくさん樹木に囲まれて過ごすことは、小学校生活を象徴する活動である。一方で、朝のボランティア活動や清掃活動の際、枯れ葉が多く、処理しきれないという経験をしている。

これらのことから、子供たちにとって、日常の中で感じている枯れ葉に関する課題と小学校への恩返しをしていくということをつなげて考えることで探究的な見方・考え方を働かせ、よりよく課題解決し、自己の生き方を考えていくことができる教材である。

(2) 児童観

本学級の子供は、入学当初から毎年、春と秋に学級園や一人一鉢に花の苗を植え、大切に世話をすることを続けてきている。また、高学年になった昨年度からボランティア活動を開始する中で、本校の樹木は自分たちにとって癒しとなっているが、枯れ葉が地域に迷惑を掛けたり、処理しきれないことがあったりすることを実感している。さらに、卒業を目前にした子供たちにとって、お世話になった西紫原小学校のためにできることをしたいという思いも高まっている。

このような子供たちにとって、枯れ葉を有効活用して小学校に恩返しができないかと考えることを通して、小学校生活6年間での出来事や思い出を振り返り、西紫原小学校で過ごしたことで今の自分たちは存在していることを改めて実感することができるよい機会となる。

(3) 指導観

本単元の指導に当たっては、まず、卒業を目前にして西紫原小学校で過ごして得てきたことを考える時間を設ける。そうすることで、6年間で様々な経験をするのができたのも西紫原小学校での経験や人との出会いだということに気付かせ、その学校や関わる人たちに恩返しをしたいという思いを高めることができるようにする。また、ボランティア活動や掃除時間に触れた枯れ葉に着目し、枯れ葉が多く処理しきれないことがあると気付くことができるようにする。枯れ葉が多いということが学校の課題であるのであれば、このことを解決することで恩返しになるのではないかと考えることができるようにする。

次に、枯れ葉を有効活用する方法を自分たちで調べたり考えたりする場を設ける。その際、無記名でアイデアを出し合うことで、自由な発想で考えを出し合うことができるようにする。

そして、出された考えの中で「学校のみんなの役に立つ」「あまりお金がかからない」「6年1組で協力してできる」という条件に合うものを話し合っ決めていく。その後、決まったものに合わせて計画、準備、実践を子供たち自身に考えさせ、実行させる。そうすることで、主体的に考えたり、友達と協働したりすることができるようにする。その際、教師は計画に無理がないか確認をしたり、必要なものの準備をしたりするなど、子供たちが安心して主体的に活動できるように支援をする。また、実践をする中で、計画の変更が必要になった場合は、変更してもよいこととし、うまくいかなかったとしても、友達と協働的に取り組み、ねばり強く活動することの大切さも実感させたい。

さらに、恩返しが形にできた際、自分たちが行った恩返しの活動を学校全体に紹介し、感想をもらうことで、自己有用感も得ることができるようにし、よりよい生活や社会の創造に向けて進んで活動しようとするにつなげていくようにする。

(4) ESDとの関連

本学習で働かせるESDの視点(見方・考え方)

相互性：学校に植えてある樹木は学校のみんなにとっては癒しであるが、葉が落ちた際の大量の枯れ葉がただのごみになってしまっている。

有限性：枯れ葉を処分するためにはゴミ袋に入れごみとして処分するが、ゴミ袋を大量に必要とするため、もったいない。

責任性：枯れ葉が地域の人の家や道路を汚してしまっている。学校に植えてある樹木なので、責任をもって処理したり、活用したりする必要がある。

本学習を通して育てたいESDの資質・能力

- ・ 批判的に考える力

枯れ葉はごみにしかならないとこれまで通りと考えるのではなく、学校のための活用法はないかと考える。

未来像を予測して計画を立てる力

- ・ 自分たちに癒しをくれる樹木の枯れ葉が、他の花のためにもなるのではないかと、そうすることで卒業式や入学式で花を飾ることでたくさんの人を喜ばせることができるのではないかとたくさんの方の笑顔を想像して計画を立てる。
- ・ 進んで参加する態度
自分がよいと思ったことは積極的に行動にうつす。

本学習で変容を促すESDの価値観

- ・ 幸福感に敏感になる。幸福感を重視する。
自分の幸せ、周りの人の幸せは何かを考える。自分や周りの人の幸せのためには何が必要か、自分がどう行動すればよいかを互いに考える。

達成が期待されるSDGs

目標 15 陸上資源

4 単元の評価規準

ア 知識及び技能	イ 思考力, 判断力, 表現力等	ウ 学びに向かう力, 人間性等
<p>① 枯れ葉を活用して, 卒業に向けてこれまでにお世話になった西紫原小学校へお礼の気持ちを伝えることよさを理解している。</p> <p>② 西紫原小学校のためになることは何かを考え, 枯れ葉を活用した恩返しを形にする技能を身に付けている。</p>	<p>① 枯れ葉に関わる課題を見だし, 西紫原小学校のみんなのためになる活用方法を考えている。</p> <p>② 枯れ葉の活用に必要なることを整理しながら計画し, 西紫原小学校への恩返しを実行している。</p>	<p>① 枯れ葉を西紫原小学校への恩返しのためにどのように活用できるか主体的に考えようとしている。</p> <p>② 友達と協働しながら恩返しを形にして実行しようとしている。</p> <p>③ 枯れ葉を活用した恩返しをすることを通して, 自己有用感を味わっている。</p>

5 単元の指導計画(全15時間)

次	主な学習活動	学習への支援(・)	評価(△) 備考(・)
1	① 西紫原小学校で過ごす中で得たことや落ち葉の課題に触れる。	① 西紫原小学校で過ごした中で得たことやボランティア活動をしていて気付いた課題を話し合う場を設ける。そうすることで, 西紫原小学校の課題に触れ, 自分たちがお世話になった学校に恩返しをするという意欲を高めることができるようにする。	△ア①
2	① 課題解決の方法を考え, (調べる), 出し合う。 ② 課題解決方法を決める。 ・ 腐葉土づくり	① グループごとに西紫原小学校の課題を前向きに解決する方法を探し, 考えを出させ合うことで, 課題の解決方法を柔軟な発想で考えることができるようにする。 ② 「学校のみんなの役に立つ」「あまりお金がかからない」「6年1組で協力	△イ① ウ①②

	<ul style="list-style-type: none"> ・ かざりづくり ・ 飛び込みゾーンづくり → <u>3つを実施して経過で判断する。</u>	<p>してできる」という条件を考えさせ、見付けた解決方法を出させ合うことで、目的にあった解決方法はどれかを話し合うことができるようにする。</p>	
3	① 解決策を進める計画，準備すること，ものを考える。	① ゴールをどうするか考えさせ，見直しをもって活動することを示すことで，期間，準備すること，ものを考えよりよい計画を立てることができるようにする。	△ア② イ② ウ①②
4	① 課題解決を実行する。 ・ <u>3つの方法をすべて行った後，最終的に全て腐葉土にする。</u>	① 計画したことを実行しながら再度話し合う中で計画を見直したり，追加の交渉が必要になったりすることは必要なことだと伝える。そうすることで，教師からの指示にとらわれることなく主体的に考えたり，協働することのよさを実感したりすることができるようにする。	△ア② イ② ウ①②
5	① 課題解決をした報告をする。	① 自分たちが行った恩返しの内容を学校全体にPRする方法を考えさせる。また，栽培委員会や主事の方から感想をいただく。そうすることで，恩返しをした実感や自己有用感を得ることができるようにする。	△ウ③
6	① 振り返りをする。	① 活動全体を振り返らせ，感想を語り合う場を設ける。そうすることで，よりよい生活や社会の創造に向けて進んで活動しようとすることができるようにする。	△ウ③